

救 急 編



令和6年度 署内検証会

戸田中央総合病院医師による検証

1. 救急行政の現状

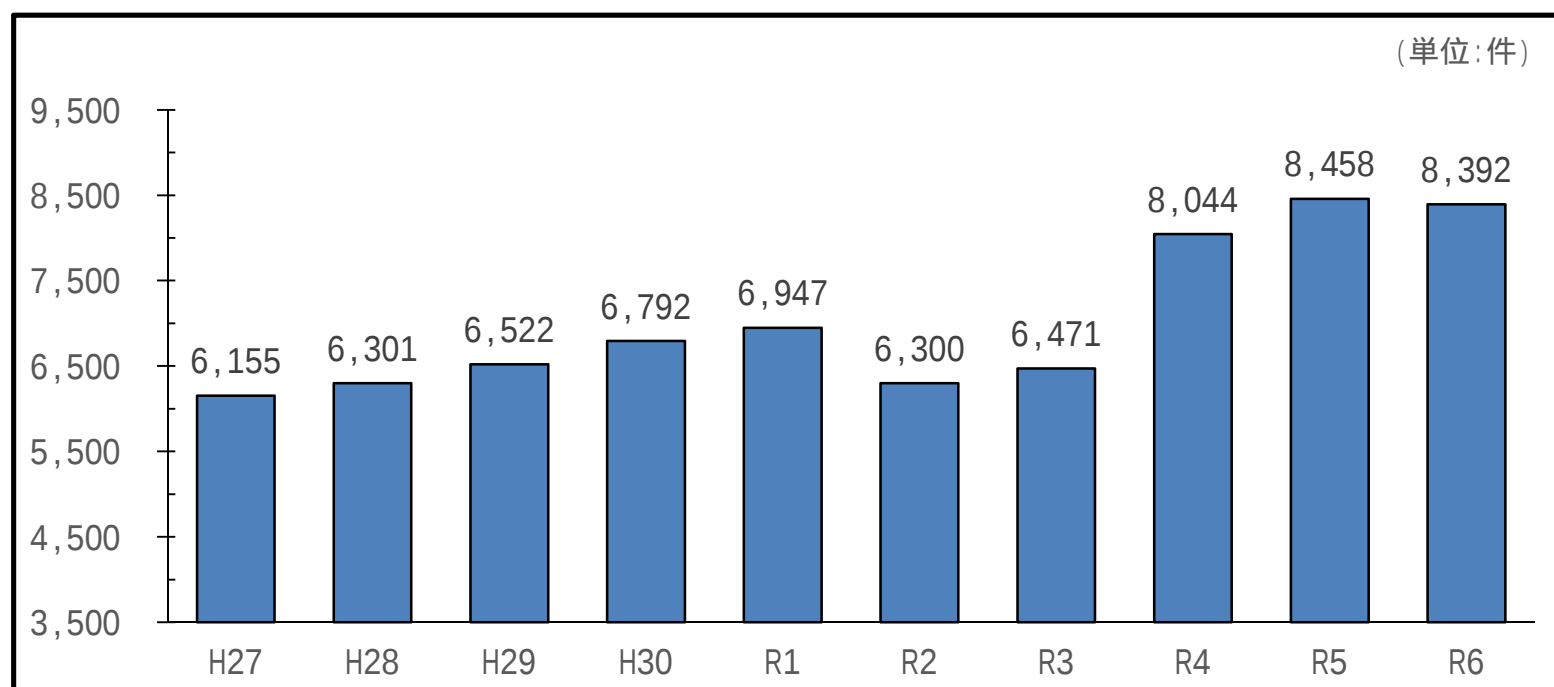
(1) 令和6年中の出場件数は、8,392件【1日平均22件】、搬送人員は7,027人【1日平均19人】です。
前年と比較しますと出場件数は66件減少しましたが、搬送人員については137人の増加となりました。
平成22年から増加傾向であった救急需要は、令和2年に減少に転じましたが、新型コロナウイルス感染症の発生のほか、各種感染症の増加等により、令和4年、令和5年に続き搬送人員が増加となりました。

(2) 心停止の社会復帰率向上のため、救急隊員が現場に到着するまでの間、その場に居合わせた人が応急手当を正しく行えるように「応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要領」を定め、応急手当普及啓発活動を積極的に実施しています。また、平成29年7月より、24時間営業しているコンビニエンスストア全62店舗にAEDを設置し、誰でも緊急時にAEDが適切に使用できる環境を整備しました。

2. 救急出場状況

(1) 出場件数

年\種別	出場件数	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
令和 3年	6,471	39	1	13	514	108	59	902	46	50	4,197	542
令和 4年	8,044	32	0	14	518	111	82	1,091	36	90	5,480	590
令和 5年	8,458	26	0	11	526	93	78	1,210	34	76	5,788	616
令和6年1月	785	1			35	6	4	95	3	6	579	56
2月	681	2		2	39	11	4	97	4	1	471	50
3月	677	3			50	4	6	102	5	9	440	58
4月	584	2		1	24	4	6	88	3	7	395	54
5月	671	5			51	5	11	84	3	6	447	59
6月	697	5		1	51	4	12	87	4	3	468	62
7月	839	1			46	19	11	106	5	6	578	67
8月	743	1			40	13	9	89	3	5	521	62
9月	626	2			32	11	3	84	3	7	426	58
10月	642	3		2	41	9	6	95	7	14	420	45
11月	621	4			38	10	9	87	1	8	413	51
12月	826	8		1	53	6	5	107	3	2	558	83
合 計	8,392	37	0	7	500	102	86	1,121	44	74	5,716	705



過去10年間の救急出場件数の推移

(2) 搬送人員

年\種別	搬送人員	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
令和 3年	5,485	6	1	1	429	103	59	801	25	31	3,497	532
令和 4年	6,519	1	0	5	413	108	77	907	21	52	4,353	582
令和 5年	6,890	0	0	0	407	91	73	998	21	45	4,646	609
令和6年1月	658				28	6	4	78	2	4	480	56
2月	558				36	9	4	81	2		379	47
3月	556				36	4	6	89	2	6	357	56
4月	489				17	4	6	69	1	3	335	54
5月	567	1			42	5	10	67	2	5	377	58
6月	594				39	4	12	76	4	1	397	61
7月	697				42	18	10	89	2	4	465	67
8月	633				34	13	9	82	1	4	428	62
9月	518	1			26	11	3	64	3	3	349	58
10月	538				34	7	6	72	5	9	360	45
11月	537				30	10	9	80		7	351	50
12月	682	2		1	40	6	5	91	2	2	453	80
合 計	7,027	4	0	1	404	97	84	938	26	48	4,731	694

(3) 年齢区分別搬送人員

令和 6 年中

	搬送人員	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
新生児	27										2	25
乳幼児	499				11			106			365	17
少 年	366			1	30		41	63		5	210	16
成 人	2,575	3			252	85	42	195	21	37	1,700	240
高齢者	3,560	1			111	12	1	574	5	6	2,454	396
合 計	7,027	4	0	1	404	97	84	938	26	48	4,731	694

(4) 不搬送件数

令和 6 年中

	出場件数	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
辞退(到着前)	12							3			8	1
辞退(到着後)	986	2			83	4	3	144	12	7	728	3
拒 否	122				16			29	2	1	72	2
明らかな死亡	128			3		1		1		14	109	
他車(隊)搬送	10			1	2			3			2	2
傷病者無し	62	28		1	2			2	1	2	26	
誤 報 いたずら	55	3		1	5				3	2	40	1
その他	9							3			4	2
合 計	1,384	33	0	6	108	5	3	185	18	26	989	11

(5) 他市救急応援出場件数

令和 6 年中

	出場件数	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他
東京都	10			2	8							
さいたま市	12				9			1			2	
蕨 市	62				3		2	9	1	1	43	3
川口市	4							1			3	
和光市	6	1			4						1	
合 計	94	1	0	2	24	0	2	11	1	1	49	3

(6) 出場地域と程度別搬送人員

令和 6 年中

	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
東部管内	14	251	1,223	1,695		3,183
本署管内	10	177	929	1,225		2,341
西部管内	8	126	603	700		1,437
市 外	0	5	28	33		66
合 計	32	559	2,783	3,653	0	7,027

(7) 年齢区分と程度別搬送人員

令和 6 年中

	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
新生児		2	23	2		27
乳幼児		2	85	412		499
少 年	1	6	83	276		366
成 人	4	190	761	1,620		2,575
高 齢	27	359	1,831	1,343		3,560
合 計	32	559	2,783	3,653	0	7,027

(8) 病院地域別搬送人員

令和 6 年中

	程 度					合 計	
	死亡	重症	中等症	軽症	その他	搬送人員	割合
戸田市内病院	30	256	1,820	2,735		4,841	68.89%
蕨市内病院		7	28	60		95	1.35%
川口市内病院	2	153	326	324		805	11.46%
さいたま市内病院		63	209	128		400	5.69%
上記以外の 埼玉県内病院		33	106	100		239	3.40%
東京都内の病院		46	294	306		646	9.19%
県内・東京都 以外の病院		1				1	0.01%
合 計	32	559	2,783	3,653	0	7,027	

(9) 診療科目搬送人員

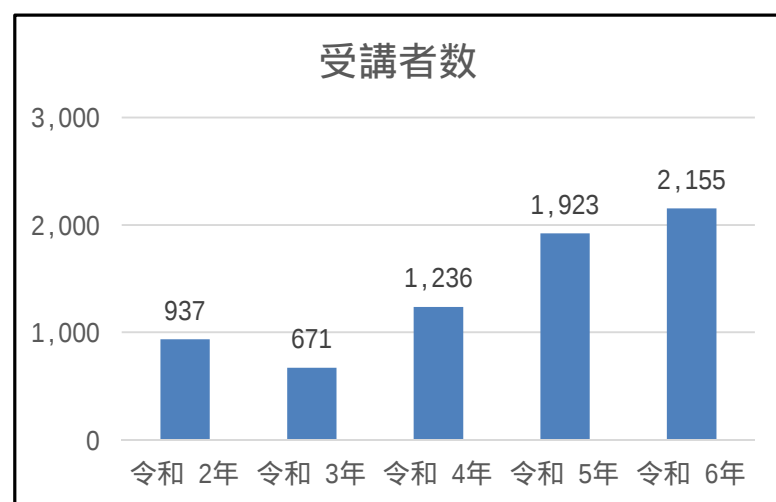
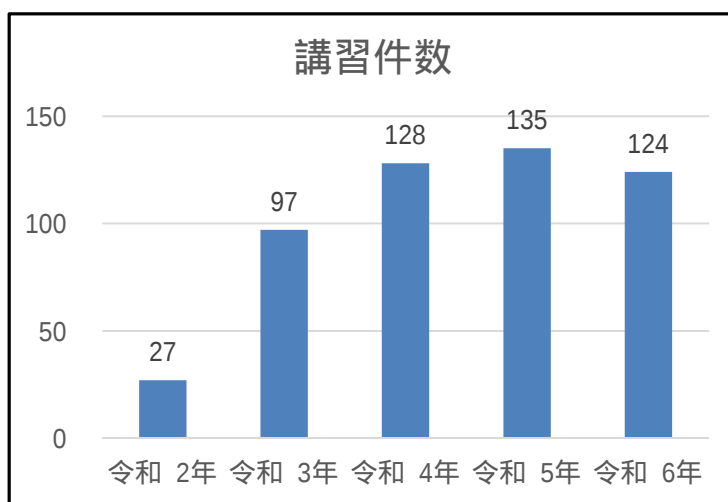
令和 6 年中

	外科	整形外科	脳外科	内科	小児科	精神科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	泌尿器科	救命	その他	合計
人員	551	819	773	3,858	616	5	99	12	20	56	184	34	7,027
割合	7.84%	11.66%	11.00%	54.90%	8.77%	0.07%	1.41%	0.17%	0.28%	0.80%	2.62%	0.48%	

3 . 救命講習実施状況

(1) 各救命講習件数及び受講者数

	普通救命講習		普通救命講習		普通救命講習		上級救命講習		救命入門コース		普及員講習		小児救急講習		その他の講習		合計	
	講習件数	受講者数	講習件数	受講者数	講習件数	受講者数	講習件数	受講者数	講習件数	受講者数	講習件数	受講者数	講習件数	受講者数	講習件数	受講者数	講習件数	受講者数
令和 2年	10	587	1	1	6	40			3	195					7	114	27	937
令和 3年	16	37	1	1	10	32	4	5			6	32	21	139	39	425	97	671
令和 4年	38	58	2	2	19	70	4	12	20	248	13	76	5	65	27	705	128	1,236
令和 5年	44	376	3	16	17	79	5	16	23	326	2	14	0	0	41	1,096	135	1,923
令和 6年	32	388	1	1	8	57	7	42	19	281	2	9	0	0	55	1,377	124	2,155



令和6年中の救命講習は、前年と比べると講習件数は減少していますが、受講者数は増加しており、新型コロナウイルス感染症が発生し、開催件数、1回の受講者数を減らすなど、受講制限を設けていたところに比べると講習件数、受講者数ともに新型コロナウイルス感染症発生前に戻りつつあります。



傷病者の命を救い、社会復帰へ導くために必要となる一連の行動を「救命の連鎖」といいます。救命の連鎖は、心停止の予防、心停止の早期認識と通報、一次救命処置、二次救命処置と心拍再開後の集中治療の4つの輪で成り立っており、この4つの輪が途切れることなく、すばやくつながることで救命効果が高まります。中でも心停止の予防、心停止の早期認識と通報、一次救命処置は、傷病者を目の前にしている人にしかできません。もしもの時に備えて、救命講習を受講しておきましょう。